

中等習字教科書

上

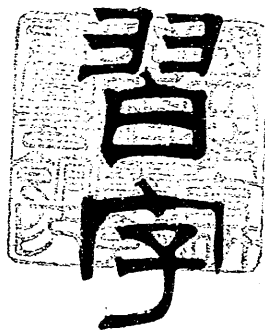
K22072  
19  
1

K220.72

19

1

中 等



字 教 科 書

緒言

一本書ハ中學及ベコレト同程度ノ諸學校教科用書ニ充ツル目的ヲ以テ編纂セシモノナリ

一本書ノ材料ハ國語及ベ漢文科トノ連絡ヲ保タシメシカ爲メニ古人ノ格言詩歌等ヲ採輯シ練習ノ傍諷誦シテ興味ヲ感セシメ學生ヲシテ倦怠ノ念ナカラシメンコトヲ勉メタリ

一近來中學生ノ文字特ニ細字ノ拙劣ヲ責ムルノ聲到ル處ニ高シ本書ハ夫等ノ弊ヲ救ハンガ爲メニ舊來ノ教科書ニ比シテ練習文字ノ數ヲ多クシ特ニ隔週

二一回細字ノ練習ヲ加ヘタリ教授者ハ生徒ノ自宅又ハ適宜ノ時間ニ於テ之ヲ課シ反復習熟セシメンコトヲ欲ス尚細字ノ速寫ヲ巧ニセンガ爲メニ文稿ノ淨寫ヲ始メ諸答按ノ淨録ニ注意セシメ本書練習材料ノ外他ノ教科書等ヨリ適宜ノ材料ヲ採リ本書ノ書風ヲ學ビテ習熟セシメンコトヲ望ム

一本書ハ中學校教授細目ニ準據シテ上中二卷ヲ楷行トシ下卷ヲ行草ニ体トシ毎回課スルニ左右二頁ヲ以テシ隔週毎ニ淨書セシムルモノトス

編者識

内其心ヲ正クシ

外其行ヲ修ム。

通於本者

不亂於末。

日暮ノ聲ニ、夕日沈メバ、松蟲、  
鈴蟲、機織蟋蟀ナド、鳴キ出ツ

或ハ、金ノ板ヲ叩クガ如ク、或ハ  
銀ノ鈴ヲ振ルガ如シ。

一利ヲ興スハ一害

上  
四

ヲ除クニ如カズ。

已所不欲

勿施於人。



豐太閤問黑田如水曰、  
天下何物最多、對曰、人

也、太閤又曰何物最少、  
對曰、人也、太閤嘉其對。

文事アル者ハ

上  
七

必ず武備アリ。

心如金石

志似松筠。

藪に雀の聲するは夜のあけたるなるべし、此の時おきいでて散歩する

を我が日々の課業とす、或は關口のあたり、或は高田のかたに。

讀書百遍ニシテ

上  
十

義自カラ通ズ。

筆硯精良

人生一樂。

塙保己一嘗爲門人講源  
氏物語方暑夜風滅燭衆

曰請且停講燭滅矣保己  
一笑曰何有眼者之不便也。

明月時ニ至リ

上十三

清風自カラ來ル。



履邪念正

居安思危。

武藏野

一、見渡すかぎりはるばると空も一つの草原、  
野末の露にまかふ星尾花の袖にかかる雲

上十五

二、草より出でて又草に入りし昔や問ひてまし、  
人口百萬咲き白ふ花の都の月影に。

満ハ損ヲ招キ

上十六

謙ハ益ヲ受ク。

萬重烟樹

千疊雲山。

尾藤二洲曰く、之れを知るごと一日なれば、  
一日猶ほ百年のごとし、無知の百年

之れを酔生夢死と云ふ、長きも何ぞ益せん、  
朝に聞いて夕に死するも、亦可ならずや。

達士ハ弦ノ直キガ如ク

小人ハ鈎ノ曲レルニ似タリ。

升高必自下

陟遐必自邇。

林羅山、朔先聖祠于忍岡、  
鳳岡奉旨移之湯島臺、其

上世一

經營規畫、更加弘麗、將軍  
綱吉親書大成殿三字、揭之。



其新知ニ結バンヨリハ

上廿二

舊好ニ敷クスルニ如カズ。

振衣千仞岡

上  
北  
三

濯足萬里流。

拜啓明日の休暇幸に晴天に候はば飛  
鳥山邊へ散策相試み度御差支之れ

なく候はば御同遊如何に候や此段端  
書を以て御誘ひ申上候草々

K220.7

明治丙午季魏  
愛石環享書



上  
共  
五

不許複製

明治三十九年十一月十日印刷  
明治三十九年十一月十五日發行

編者 玉木本三郎  
大坂市南區安堂寺橋通四丁目百五十八番屋敷

發行者 吉岡平助  
大坂市東區備後町四丁目七十八番屋敷

發行者 繁本龜治  
大坂市南區安堂寺橋通四丁目二百卅三番屋敷

賣捌所 吉川弘文館  
東京市京橋區南傳馬町一丁目十二番地

同 篠崎參文舍  
東京市京橋區北旗町二番地

上中下  
各册  
定價 貳拾錢

